

せきおんせん

関 温 泉 . (旧関之山ノ湯) について

南越後と北信州の県境に位置する霊峰妙高山。関温泉は、妙高山麓の標高約 1,000 メートルに位置します。信越国立公園に指定され豊かなブナの林が多く残っています。さらに、妙高高原で最も古く歴史ある温泉地です。

< 歴 史 >

民話では、年に一度、霊峰妙高の神仏が入浴されたと伝えられる神秘の湯。

弘法大師により発見されたといわれています。

山岳信仰の拠点であったようで、明神杉、一王院、篠倉の庄、三途の川、不動滝など数々の名残があります。

平安後期には、木曾義仲が平家討伐の必勝祈願のために関温泉より登ったとされている。現在も義仲とその姥を祭る姥堂が残ります。

戦国の時代には妙高山を信仰した上杉謙信の隠し湯として知られています。

関温泉**旧関山の湯**は、上杉謙信は、妙高山の崇拜し「妙高山 雲上寺宝蔵院」

(現・関山神社) に厚く信仰しました。

姥堂の中には、五輪塔があり、上杉謙信の身内の墓とも言われています。

また、宝蔵院の鼻と呼ばれる小高い丘には、謙信の山城跡があります。

江戸中期(享保 12 年＝徳川吉宗の時代)には本格的に湯治場

として開湯されました。関山村の豊田五太夫の馬によって開湯

されたとされています。この時代の「諸国温泉番付」にもたびたび登場し、

越後三代名湯として知られるようになりました。

明治 4 年には、温泉地の移転がありました。度重なる水害のためです。関山神社付近に引湯し、明治 12 年に新しい温泉地が誕生しました。

しかし、温度が低いということで明治 30 年に景勝地である芝原唐沢に移転。

ここもまた、陸軍の駐屯地となり現在の位置に移転しました。

明治 21 年の「諸国温泉番付」にも登場しています。

近年では、昭和 47 年に環境庁(現環境省)の指定の国民保養温泉地に指定されました。

平成 16 年には、全国初の「ORP 科学的証明による源泉 100%かけ流し」宣言を行いました。

平成 18 年の札幌国際大学の松田忠徳教授による「全国平成温泉番付」にも選ばれました。

関温泉は、若返りの温泉

—ORPで還元系の温泉を証明—

<温泉水のORP分析とは>

近年、癌や老化の原因となる活性酸素を消去する、抗酸化能力を持つ食品や飲料水が注目を集めている。この活性酸素は、多くの

場合、物質を「酸化」させる。つまり錆びさせる。

この「酸化」に対して「還元」という現象がある。

この温泉水の「酸化」「還元」の度合いを計測し、評価する方法がORPである。

<酸化系の温泉>

皮膚の酸化（老化）を促進させる作用

塩素を使つたろ過循環をした温泉などが、これにあたる

<還元系の温泉>

皮膚の酸化（老化）を抑制、元に戻す作用

関温泉の大浴場の温泉は、これにあたる

関温泉のある大浴場の源泉 100%かけ流しの温泉は、平成 16 年にすべての源泉と浴槽をORP分析で調査を行いすべての大浴場の温泉が、「還元系」であると証明しました。

引用 「ホンモノの温泉は、ここにある」

著 松田忠徳（札幌国際大学観光学部教授）

光文社新書

<温泉の鮮度>

「温泉は、生ビールと一緒にです」

湯上りの時に飲む生ビールをイメージしてみてください。

ジョッキに注がれた泡だったビールをそのままに放置しておくと

泡が消え、炭酸が逃げ、ビール本来の持ち味が失われる。

温泉もこの生ビールも同じだとか考えて頂きたい。時間が経過するにつれて温泉は劣化する。温泉は生き物だから鮮度が命なのである。

関温泉のお湯は、鮮度が良いという状態がORPによって証明されています。

引用 温泉教授の温泉ゼミナール

著 松田忠徳（札幌国際大学観光学部教授）

光文社新書

関温泉の分析所見

日本温泉総合研究所研究顧問 大河内 正一
法政大学工学部物質化学科教授 (工学博士)

関温泉は、約1kmほど先の源泉から11軒の旅館に引湯している。泉質は、ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉で、さらに鉄分および炭酸ガスを比較的多く含むのが特徴である。そのため鉄分により、赤く濁ることから「赤い濁り湯」としても知られている。

温泉は、湧出直後から時間の経過に伴いエイジング (Aging; 老化) が起こり、温泉水の鮮度が低下していく。塩素が加えられた温泉では、鮮度はゼロ以下のマイナスとなり、全く温泉の特性が失われる。現在、歴史的にも有名な道後温泉本館の「源泉かけ流し」の湯にも塩素殺菌が条例で義務付けられ、マスコミでもその是非が大きく取り上げられた。このままでは、日本の温泉すべてが塩素づけになる可能性を秘めている。その意味で、今年6月の奈良県十津川村の「源泉かけ流し」宣言の意味は、温泉愛好者、従事者および行政にあたえる影響は大きいと思われる。

そこで今回、さらに「源泉かけ流し」の湯に対し、より科学的根拠の裏づけを与えるため、源泉と比較して実際に入浴する浴槽水の鮮度を保証する提案を行なった。なぜなら、「源泉かけ流し」と言っても、実際の浴槽水は源泉と比較して、どの程度エイジングが進んでいる、またはどの程度鮮度が低下しているのか不明だからである。

そこで、エイジングあるいは鮮度を求める方法として、我々がこれまで提案してきたORP (酸化還元電位) - PH関係に基づいた新たな水評価法を採用して、関温泉各旅館11軒の浴槽の鮮度評価を行なった。

その結果、源泉を約1kmも引湯しているにもかかわらず、鮮度は約70%台と良好だった。浴槽至近から湧出する源泉でも、加熱や加水、さらには貯蓄タンクなどで時間経過した場合、浴槽水の鮮度が50%を割る事例が多く見られる。泉質的な特徴や関温泉の条件的な背景を考えると、良好な鮮度であると判定できる。すなわち、関温泉の各旅館では、加熱、加水なし、当然塩素添加なしの一切自然のまま、鮮度70%の保障がある“源泉かけ流し”の浴槽水に入浴可能なのである。

関温泉では、これまで各地で行なわれてきた“源泉かけ流し”宣言より、さらに科学的データに基づき浴槽水の鮮度保障を有する“源泉かけ流し”宣言を行なった。これは、昨今マスコミを騒がせている一連の温泉騒動に対して、“信頼回復”の一石を投じるものであり、より情報公開の進んだ“源泉かけ流し”宣言を意味するのである。

—全国初 科学的証明による— 旧妙高村・関温泉「源泉100%かけ流し」宣言

近年、温泉の偽装表示が問題となっております。関温泉は、源泉に加温、加水、ろ過循環、塩素投与をしない「源泉100%かけ流し」温泉です。

温泉に詳しい松田忠徳教授(札幌国際大学)によると、このような温泉は、全国にある温泉でもわずか数%しかないと言われています。

そこで私どもは、「この貴重な温泉を知って頂くこと」と「お客様に不当表示で不利益を与えない」ために全旅館の浴槽で科学的な調査(CRP分析)を実施しました。その結果、全国で初めて科学的な証明による「源泉100%かけ流し」宣言を行ないました。



「宣言文を読上げる妙高村村長」



「関温泉旅館組合一同」

<詳細>

依頼者	関温泉旅館組合
請負先	日本温泉総合研究所
調査・分析	大河内 正一(法政大学工学部・同研究所顧問) 森本 卓也(同研究所統括)
実施日	平成16年6月27日・28日
調査場所	関温泉源泉(川原湯)、分湯枡、全旅館11軒の男女浴槽
調査・分析方法	CRP(酸化還元電位)測定

◇CRP分析表は、各浴室に掲示してありますのご覧下さい。

関温泉「源泉 100%かけ流し宣言」に寄せて

日本温泉総合研究所所長 松田 忠徳
札幌国際大学観光学部教授

温泉の本質とは何か。マスコミによって温泉をめぐる虚偽や不誠実が連日のように明らかになっている。これまで温泉の世界では、“本質とは何か”という問いかけが蔑ろにされてきた。

入浴剤を混入した温泉や水道水を沸かして温泉と称する施設はかなり昔から存在していた。「いまになって、なぜ責めを受けなければならないのか・・・」。それが、いまマスコミの矢面に立たされている温泉経営者の偽らざる本音だろう。だが、“時代”はとっくに変わりはじめている。いまほどホンモノが胸を張れる時代はないのだ。

江戸中期に開湯し、江戸時代の温泉番付『諸国温泉効能鑑』にもたびたび登場した関温泉は、現在に至るまで加水や加温はいっさい行なわず、谷間からこんこんと湧き出る温泉を頑なに守り続けている。観光のトレンドを追及する温泉地はたくさんあるが、温泉の本質に立ち返ろうとする温泉地はそう多くない。

関温泉では一連の温泉騒動が起こる以前に、ORP分析によって自らの温泉の“質”を世に問う行動を起こした。当初は組合内にも、「期待した結果が得られなかったらどうするのか」という声もあったと聞く。その不安は当然のことだろう。それを乗り越えて本日の「源泉 100%かけ流し宣言」を迎えた。温泉の質を科学的に明らかにした上での宣言は日本初であり、これは革命的なことといっても過言ではない。

温泉地や温泉宿から「温泉」を差し引いたら、いったい何が残るというのか。関温泉では率先してその答えを出し、いま世に問うた。関温泉 11 軒の旅館は、「温泉の本質とは何か」という問いかけを今後も忘れないでいて欲しい。少なくとも、そのことを共通認識として持ち続けて欲しい。こうした 11 軒の連帯を世に示すことが関温泉としてのアピールとなるだけでなく、消費者の温泉に対する信頼回復の旗印にもなるのである。